



# 京都教区時報



京都教区広報委員会  
 (編集長 村上透磨)  
 京都教区本部事務局  
 京都市中京区  
 河原町通三条上る  
 TEL 075-211-3025  
 FAX 075-211-3041  
 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁～3頁 神学生・司祭養成協力会 (一粒会)

3頁～7頁 中学生広島平和巡礼 感想文

点訳版「京都教区時報」〈無料〉  
 ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶺崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。  
 TEL・FAX 079-431-8601

2019年 司教年頭書簡を読む⑧

## 「気兼ねなく滞在できる家」小教区

小教区には国籍がありません、ハーフでもない、ダブルでもない。

小教区を意味するギリシャ語の「パロイキア parokia」(英語の parish の語源)は、新約聖書で寄留者の意味で最もよく使われる「そばに住む」(パロイケオ paroikeo) という動詞から派生してできたことばです。

### 小教区は家庭であり喜び

小教区教会は、訪れて来るすべての人を喜んで迎え入れて、だれをも差別せず、だれも部外者とならないところです。今日、京都教区には多くの外国人がいます。しかし、私たちは彼らを外国人としてではなく、兄弟として見るべきです。私たちは兄弟を受け入れ、歓迎する教会であるべきです。教会はすべての人のための家庭であり、特に労苦する人、重荷を負う人にとって、我が家のように安心してくつろげる場所であればなりません。移住してきた信徒たちにとって、宗教(カトリック)は生活にとって欠かせないものであるだけでなく、アイデンティティーや出身国の民族性の基盤であることも理解しましょう。

「移住家族に対しては、彼らがどこにいても教会の中に自分たちの故国を見いだすことができるように配慮すべきです。これは多様



アッパレシーダの聖母 (ブラジル)

性と一致のしるしである教会の本質的な務めです」(教皇ヨハネ・パウロ二世、使徒的勸告『家庭』77)。

移住してきた信徒たちも、出来るだけ小教区の各部会や、色々な活動に参加することが望ましいです。また、小教区も受け入れられるような体制作りをしなければなりません。

### 小教区の深い交流

一つの小教区内で、地元の信徒と移住者のグループとの間で、便宜上の「棲み分け」をしてはいけません。それでは、より深い交流の可能性を閉ざし、表面的な関係にとどまってしまう。むしろ、工夫と努力を惜しまず、ともに活動する機会を重ねて、相互に信仰において豊かになる道を模索すべきです。そうでな



セニョール・デ・ロス・ミラグロス  
(ペルー)

れば、神の国を表す事にはなりません。イエスはいつも、このように教えてくださいました。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」(ヨハネ15、12)。

### 素晴らしい信仰のエネルギーを 感じるために

その一つの例として、京都教区でも、ラテンアメリカからの移住信徒のおかげで、30年前には知られていなかったブラジルの「アッパレシードの聖母」のお祭りや、ペルーの「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」(奇跡の主)のお祭りなどを一緒にお祝いするようになりまし

た。地元の信徒はともに祝うことにより、それぞれの国の教会の伝統と信心に触れ、カトリックのより豊かな霊性を知り、教会の普遍性を体感できるようになりました。

多国籍の共同体づくりで目指す交わりと一致とは、移住者の自らの文化的アイデンティティを忘れ去ってしまうような同化を意味しているのではありません。むしろ、地元信徒は、交流を通して、移住者をもつ信仰のエネルギーを感じて、神の賜物としてのお互いの信仰のルーツを、もっと良く知り合うようになります(教皇庁移住・移動者司牧評議会、指針「移住者へのキリストの愛」<sup>2</sup>、42、43、62、80、89参照)。

外国人の文化や伝統を知ることが、誰もが、信仰を生きるための方法でもあります。

(カマチョ・アントニオ)

### 神学生・司祭養成協力会

#### (一粒会)

皆様には、神学生・司祭養成協力会(一粒会)のために日々の祈りと献金をいただきます。現在の京都教区の神学生は、出水神学生、久保神学生の2人です。2人の神

学生が、神の呼びかけによりよく応えることができますように、お祈りください。

京都司教区内の信者、求道者の方々と本会の趣旨に賛同される方は、どなたでも本会の会員になることができます。会員は、司祭・神学生の召命のために毎日祈りを捧げ、毎月一口100円以上を献金することになっています。会員となられた方のためには、司教が、年に1回のミサ、また毎月1回のミサが捧げられています。毎月、神学生が会員の皆様のために祈りを捧げております。

神の民である教区民の中から、司祭召命は生まれません。それゆえ、司祭召命は、地方教会のキリスト者の信仰生活の質に、比例するといわれてきました。今あらためて、わたしたちがそれぞれの信仰生活を見直し、祈りと活動によって、わたしたち教区民の中から、司祭召命を輩出していくという意識を一層強めていきたいものです。

また、協力のうち一部は、海外から京都教区に派遣された神学生・司祭の日本語研修費にも充てさせて頂いております。

皆様からいただいた2018年度の協力会献金は、9,765,137円です。ありがとうございます。

支出内訳は、日本カトリック神学院分担金、5,710,000円(この分担金は神学生が在籍しない場合も払わ

なければなりません)。出水神学生入学金等学費、2,000、000円、出水神学生交通費、教科書代、食事代が249,023円です。久保神学生は2019年入学ですので、2018年度には費用は計上しておりません。

濟州教区から派遣されているホン・ユンハク神父と、フィリピン宣教会のアントニオ・クレマ神父の日本語研修学費が、1,112,342円でした。収支差額は次年度に繰り越させて頂いておりません。

一人でも多くの方が、協力会会員となっていたとき、神学生・司祭の養成のためのお祈りと献金をお捧げ頂きますように宜しくお願いいたします。

カトリック京都司教区  
神学生・司祭養成協力会（一粒会）

担当司祭 福岡一穂

### 中学生広島平和巡礼 感想文



8月5日～7日にかけて、今年も中学生が広島平和巡礼に行ってきました。姉妹教区である濟州教区の中学生も参加し、司教・司祭・教区中学生・濟州中学生が巡礼地で、戦争と平和について共に

考えました。

### 広島平和巡礼

衣笠教会 一年

私は初めて広島に来てたくさんの事を学びました。一日目の中で印象的だったことは平和行進です。足がくたくたになるくらい、商店街をひたすら歩きました。その時に、「数十年前の明日には原爆が落ちるのか。」そう考えてみるとすごく怖かったです。しかし、他の教区の人達と一緒に歩いて平和を祈るうちに、とても疲れたけど、ものすごく良い経験になったと思えました。そしてもうひとつは、夜に新しくできた友達と少しだけお話ししたことです。広島に来る前は不安だったのですが、友達関係が、安心感に包まれました。このことはもうひとつの大切な思い出です。

二日目は、二つ心に残っていることがあります。ひとつ目は相生橋の近くで黙とうをしたことです。その時に、戦争や核の恐ろしさ、そして平和の尊さを改めて強く感じられました。ふたつ目は平和記念資料館を友達と回った事です。作品は全てその時代に行ったかのように、本当に当時のまま残っていて、とても胸に刻まれました。ぼろぼろの三輪車、火傷や傷におおわれた人の写真などは残酷

で、今の自分たちから考えると非現実的なものばかりでした。そんな恐ろしい被害が昔にあったと思うと、この時代はすごく恵まれていると感じました。広島に来て残酷だった当時の現実を実際に目にするので、私は平和に目を向けることはものすごく大切だと思いました。

### 平和の輪をつなぐ

丹後教会 二年

広島への旅立ち。初めていく場所と、初めて出会う人たちに最初はドキドキでいっぱいでした。でも二日目の今、私の隣には仲間がいて、とても楽しく充実している時が経つ速さを感じています。

一日目、原爆ドームを初めて自分の目で見て、原爆というものについてよく知らなかったのですが、その悲惨さを感じました。平和行進に参加すると、全国から多くの人が集まっています。私もこの行列に参列している一人として、しっかり祈りながら歩こうと思ったり、これが全世界の一人一人の心にも響いてほしいなと思いました。

その後行った、世界平和記念聖堂はすごく大きくて、きれいで感動しました。それに、那覇教区のバートン司教様をはじめ、沢山の神父様がいて参加者も多く、皆で平和を祈ることができて嬉しかった



です。

原爆投下から七十四年目の今日、相生橋や各慰霊碑で黙祷を捧げる中で、その時の光景と共にその時代の人々の思いを想像しても、正直それらは信じられなかったです。その後、平和祈念公園や資料館を見学すると、原爆投下当時の映像や写真があって、それは想像していた以上で、原爆の破壊力の強さを見せつけられ、ただただ怖いと思うばかりでした。沢山の命をむごい方法で奪って、何になるのかという疑問を、戦争時に向かって投げかけたくなりました。でも過去に起こってしまったことはどうしようもなく、大切なことは、今、過去から学んで未来につながるのだと思います。みんなとにかく知ってほしいと思います。一日目の分かち合いで考えた、「平和のために何ができるか」というテーマ



で私は、司教様もおっしゃった通り武器を無くすことから始めるべきだと思いません。みんなで考えるべきことだから、みんなで手を繋げたらいいのにも思いました。

平和について、韓国の子と一緒に考えることで小さな繋がりができたので、この輪が広がってほしいです。この巡礼で沢山の出会いと学びがあって、来て良かったと思うし、ここで学んだことを心に残しておこうと思います。

### 平和巡礼の思い出

長浜教会 三年

私は、広島巡礼に来る前まで、少し不安がありました。今年は最高学年で、三年生も少なく、班なども心配していました。いざ来てみると、予想通り三年生は少なかったけど、来る前までの不安や心配もなくなっていて、みんな仲よくなっていました。しかも、みんな楽しいだけで終わるのではなく、しっかりと広島に起こった被害について学ぶことができました。

私の心に残った展示品が一つあります。一つ目は、三輪車・鉄のかぶとです。理由は、「原爆投下一分前までは楽しく遊んでいたかもしれないのに、一分後には周りが焼け野原になっており、自分の

三輪車はもう、雰囲気しか分からない物になっていた」という悲しみや恐ろしさが、見た瞬間に伝わってきたからです。だから、私は原爆の恐ろしさを感じて、とても悲しくなりました。二つ目は、黒い雨を飲んでいる女性です。この展示品では、苦しさを感じました。なぜなら、水というものは当たり前前飲めるものなのに、爆撃後の雨を飲まなければいけない、そんな状態が苦しうに見えたからです。

もう一つこの巡礼で心に残ったことがあります。それは、済州教区のみなさんとお話できました。ご飯を食べながらお話ができました。新しく韓国語を覚えることもできました。自分の班の済州教区の子達とも仲よくなれました。来年も来たいと思ったけど、来ることができないので高校生会に行きたいと思いました。

### 広島平和巡礼を終えて

禾北（ファブク）教会

京都の友だちと共にした広島平和巡礼中、私は平和記念資料館と平和公園の慰霊碑が一番心に残りました。なぜなら、今まで本や絵だけを見て、言葉として聞くだけだった姿を実際の遺品を見て、写

真を見ながら、現場でその状況の説明を聞くことができたからです。本で読んで聞いた時も残酷でしたが、実際の原爆の被害を受けた場所で、絵と当時の状況と向き合うとその時のことがもっと心に染み付き、当時苦しんでいた人々の心を少しながら共感できました。

特に、平和記念資料館で一番記憶に残ったのは、黒い雨を飲む人々を描いた絵でした。原爆を落とされ、その熱さでのがれたい人たちは水を探しながら歩き回ったが、飲む水がなく、飲んだらだめなのに、放射線に汚染された黒い雨を飲む姿にとってもショックを受けました。そして、その水を飲んで死んで倒れる姿を絵で見ながらその方々があの水を飲むまでどれだけ苦しんでいたか、どれだけのどが渴いていたかを考えると心が痛かったです。

その絵を見た後、今でも原爆の被害でたくさんの方が苦しんでいるということを知ると、私が今元気で過ごしていることに感謝する気持ちが生まれました。

また、原子爆弾の模型を見ながら、思ったより大きくないこの爆弾が、こんなに大きな被害を起こしたことにまた驚きました。この原子爆弾のように、小さい人間たちの欲張り跟自己中心的考えが戦争を起し、たくさんの方々の被害を残したことを考えると心が痛かったです。

まだ終わっていない戦争の被害。亡く

なられた方も多く、まだ痛みがあり苦しんでいる方も多いけれど、すべての方が戦争がない世の中、平和な世の中を訴え、巡礼の道と共にしてくださることに、大きな感動を受けました。そして、私たちもその巡礼と一緒に参加できたことが、誇らしかったです。

これからは広島みたくに原爆による、戦争による犠牲は、なくならないといけないと思います。罪のない人たちが苦しんで、犠牲になってはならないです。そのために私たちが、力を合わせて平和を実現する人になろうと思いました。

神様の平和がこの地のすべての人と共にありますように、またその真の平和が地上に満たされますように。

京都教区の友達と一緒に2泊3日の平和巡礼

西歸福者(ソギボクザ)教会

京都教区の友達と一緒に行った広島平和巡礼は、私にとって特別な経験でした。特に、広島市の平和のための行進が印象に残りました。暑い日でしたが、平和のために一緒に歌を歌いながら楽しく行進をしました。広島には原子爆弾が落とされ、たくさんの方が死に、すべてが消えた悲しい出来事があります。私たちは広島市の悲しい記憶を共にし、こんな悲

劇が二度と繰り返されないように祈る心で、一緒に平和行進をしました。この意味深い場をともにできたことは、私にとって大きな学びで、新しい経験でした。そして、平和祈願ミサも一緒にささげました。日本語のミサだったので意味は分かりませんが、そのミサに参加するすべての人たちが、同じ心で広島と世界の平和のために祈る姿から、ミサの中ですべての言語を乗り越える神様の神秘をもにしていることを感じる事ができました。

そして「おこる地蔵」という絵本を読みました。日本語になっていましたが、リーダーがしてくれた通訳を聞いて、たくさんの方を感じました。広島に原爆が落とされる前、いつも笑顔だった地蔵が原爆が落とされた後、怒る顔に変わり、それは全身に火傷を負い苦しむ人々



と壊された建物を見て怒るよう感じました。私もその姿を見たら地蔵のように怒った顔になったと思います。なぜなら人々が自分の私利私欲を満たすために、自分たちの利益のために戦争を起こし、たくさんの人々を苦しめることになったからです。そして、今の私たちの姿が地蔵の顔を怒った顔に変えたのではないかという反省もありました。

私は原爆の被害を受けた人々がどれだけ大きな苦しみを感じたかを、平和記念資料館で知ることができました。火傷を負った川に飛び込む人たちの姿、のどが渇いていたが飲む水がなく、飲んだら危ない黒い雨を飲む人々の姿、灰色と赤色で変わってしまった空と雲。たくさんのものが私に戦争の恐ろしさを教えてくれたし、その当時の苦しみを共に感じることでできました。

今回の広島平和巡礼を通して多く感じることがありました。一番最初に思ったのは「二度と戦争が起こらないといいな」でした。そして「お互いを思いやり、命を大事に思う平和な世の中になってほしい」という考えもまだ頭の中に残っています。

そういった世の中を完成させるためには、たくさんの方の祈りと努力が必要だと思っています。私もこれから小さな力ではありますが、世の中の平和のために力を入れ、祈りをしようと思います。小さな力が集

まって大きな力になるように私たちがみんなが力を合わせ、同じ思いで祈ると戦争のない世の中、誰も苦しまない世の中、平和な世の中になると信じます。

## 2019年広島平和巡礼に参加して

大塚 乾隆

今年も広島平和巡礼の季節がやってきた。出発直前、私は次の二つのことへの祈りをお願いした。一つは少し不調を覚える子がいるのは毎年のことだが、無事に平和行進が終わること、もう一つはヤジがなく、特に済州の子たちが、いやな思いをせずに帰れることである。数年前に、韓国の人たちに対する心ない言葉を浴びせられたことを思い出し、日韓関係が最悪と言われているこの時期に、済州

の子たちと一緒に無事に歩けるかどうか心配していた。

8月5日、広島は例年通りの暑さであったが、平和行進の時は日がカンカンに照ることもなく、歩きやすい環境だった。さらに、歩いている途中、どんなヤジも聞こえてこなかった。後になって「いったい私は何を心配していたのだろうか」、神さまは多くの方々の祈りを聞き入れてくださったのだと思った。

平和記念資料館もリニューアルオープンし、今までとは違う気づきも得られたことは良かったが、神さまはさらなるサプライズを用意されていたのだ。往路は新幹線で広島に向かったのだ。京都駅から皆で向かった。一方復路はバスに乗って帰るが、京都教区は京都駅で、済州教区は河原町教会で解散となるため、バスに乗る前に解散式をすることになる。京都と済州の中学生たちが、どうやって仲良くなったのかと毎年思うのだが、別れを惜しんでいる様子を見ると、言葉や政治の問題ではなく、直接会うこと、同じイエス様を信じている者同士のつながりが、どれだけ大切なことかを痛感した。

バスの中では、京都教区の中学生が済州教区の中学生との別れを惜しんでいた。私は「パーキングエリアで会いに行こう、そしてせっかくだから韓国語の主の祈りを歌おう」と勧めた。そして、最後のパーキングエリアでは、多く







の中学生やリーダーが済州教区の中学生が乗っているバスに向かい、「主の祈り」を歌うのだが、京都教区の子たちは上手に歌えない。その様子を見た済州教区の中学生と一緒に歌ってくれたのだ。そのとき、「求めなさい、そうすれば『求めて以上の』与えられる」と聖書の言葉が浮かんできた。神さまは私が求めていた以上のものを下さったのだ。

済州教区の中学生たちが広島平和巡礼に参加してくれたこと、京都教区の中学生が最後にもう一度会いたいと言ってくれたこと、これらの小さなことから大きな恵みをいただいた。私たちの小さな一歩をも使って、神さまは大きな恵みを下さるに違いない。

10月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(211)3484 ㊦㊧  
聖書講座

旅する神の民 私たち 皆 寄留人  
—共に住み、共に歩む—

日 時：10日㊦ 10:30  
テーマ：あなたの神とは誰か

講 師：菅原 友明師

日 時：24日㊦ 10:30

テーマ：聖家族の旅

講 師：一場 修師

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

よく分かる聖書の学び

日 時：16日㊦ 10:30

講 師：北村 善朗師 / 参加費：300円

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

信仰教育委員会

青年のための黙想会

日 時：5日㊦ 17:00～6日㊦ 16:00

講 師：菅原 友明師

会 場：望洋庵

対 象：青年男女 / 参加費：2,500円

申込要：Fax.075(211)4345

Eメール：honbu@kyoto.catholic.jp

締 切：9月23日㊦

青少年委員会

京都カトリック青年センター

ロザリオの集い「ロザリオの夕べ」

日 時：5日㊦(時間HP要確認)

対 象：18歳以上(高校生不可)

場 所：伏見教会

持ち物：ロザリオ

(詳細は青年センターHPをご覧ください)

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：13日㊦ 14:00 / 場所：洛星宗教研究館

26日㊦ 18:00 ミサ奉仕後

／場所：河原町教会聖堂

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練習：10日㊦ 10:00 / 24日㊦ 10:00

河原町教会聖堂 2階楽廊

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイA

毎週土曜日 朝7:45

シリーズ「自分を深く知るために」

出演は Sr.小野 恭世(イエズス孝女会)

ラジオ(KBS京都) ㊦～㊧ 朝5:55

㊦ 朝5:15

10月のテーマ「共にある」

11月のお知らせ

京都教区カトリック正義と平和協議会

現地学習会「シサムとよばれた日本人」

—松浦武四郎をたずねる—

日 時：11月2日㊦ 10:50～15:00

プログラム：10:30 近鉄松阪駅 集合

10:50 松浦武四郎記念館 現地集合

松浦武四郎生家 見学

13:30 松阪教会(聖体訪問・昼食)

15:00 近鉄松阪駅 解散

持ち物：弁当、飲み物、交通費

申込要：詳細はチラシをご覧ください

問合せ：Tel・Fax.075(223)2291(Tel ㊦のみ)

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：11月7日㊦ 13:00～15:00

場 所：希望の家地域福祉センター

申込要：Tel・Fax.075(822)3548 岡本

京都南部ウォーカーソン

日 時：11月4日㊦ 10:00～14:00

受 付：8:45 河原町教会

コース：河原町教会から鴨川沿い往復

寄付先：東日本大震災被災者へ支援

ブルキナファソでの教育活動支援

ネパールでの教育活動支援

※ 12月号の原稿締切り日は10月16日㊦です。

## 大塚司教の

10月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 3日(水) 10:00 中央協 常任司教委員会  
17:00 東京カトリック神学院  
常任司教委員会
- 4日(木) 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者  
ゆかりの教区の集い  
(主催:列聖推進委員会)
- 5日(金) 11:00 京都元和の大殉教  
400年記念ミサ(河原町教会)
- 6日(土) 10:15 京都北部ブロック  
国際ファミリーデー(福知山教会)
- 7日(日) 15:00 司教顧問会
- 8日(月) 10:30 求道者に同伴する信徒養成講座
- 12日(金) 10:00 聖母の小さな学校  
スポーツフェスタ
- 13日(土) 10:00 アッパレシダの聖母ミサ  
(伊賀上野教会)
- 14日(日) 10:00 京都南部 国際ファミリーデー  
(旧聖母短大講堂)

- 15日(火) 14:00 福音宣教企画室 会議
- 18日(金) 11:00 中央協議会 会議
- 19日(土) 15:00 ノートルダム教育修道女会  
金祝ミサ(岩倉修道院)
- 20日(日) セニョール・デ・ロス・ミラグロスのミサ  
(草津教会)
- 21日(月)-23日(水) 教区司祭 年の黙想  
(軽井沢 宣教クララ修道会 黙想の家)
- 24日(木)-26日(土) 教皇訪日準備(東京)
- 27日(日) 10:30 唐崎教会 献堂50周年記念ミサ  
(旧見世教会)
- 29日(火)-30日(水) 「カトリック大阪教会管区  
部落差別人権活動センター」担当司祭の集い  
(岡山)

## 教区本部事務局からのお知らせ

※移転業務のために10月23日(水)～25日(金)は、本部事務局、福音宣教企画室、諸委員会は休業となります。  
詳しくは、教区時報2019年8月号をご覧ください。

**【休業日】10月23日(水)～25日(金)**

## 青年センター主催行事「一日企画」

“青年たちが気軽に参加できるように”という思いから企画に至った、日帰りでのイベント「一日企画」。

今回は、青年センターで聖書カルタを行いました。高校生から社会人まで幅広い年代の青年が集まり、とても賑やかでした。

初めは一般的なカルタのルールにしたがって行っていましたが、2回目になると、新約聖書か旧約聖書かを答えなければならないというルールが追加され、なんと4回目には、福音名または何記かを答えなければならないというかなり難しいルールが追加されました。ですが、こ

れらのルールを取り入れたおかげで聖書についての知識がとてつきました。

今後もみんな楽しく聖書について知る機会があれば良いなと思いました。



〔青年センターHP〕 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

青年センターあんでな